

20 年産秋冬野菜の需給・価格動向について

— 第 2 回野菜需給・価格情報委員会(平成 20 年 10 月 21 日開催)より —

I 冬キャベツ（11月～翌年3月）の需給・価格見通し

1 生産出荷状況

(1) 供給計画

平成20年の冬キャベツの供給計画によると、全農が6月に策定した当初計画では、作付面積は対前年100%（系統共販分）であるが、10アール当たりの収量増を見込み、収穫量103%、出荷量を102%としたところである。10月末策定の確定計画においては、台風の上陸もなく生育は概ね順調として、全体が101%、系統共販計を103%としている。

○当初計画

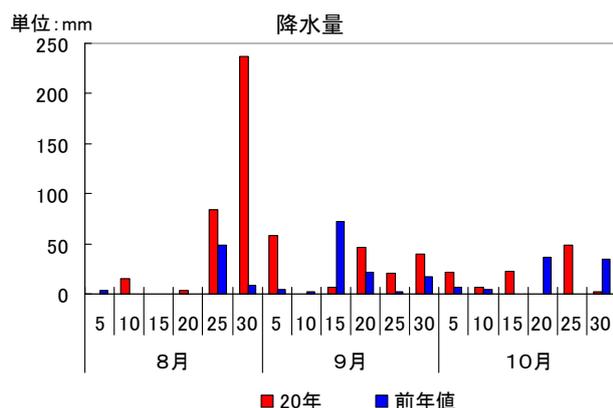
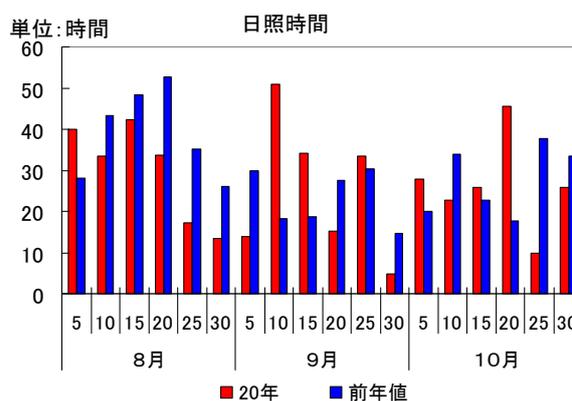
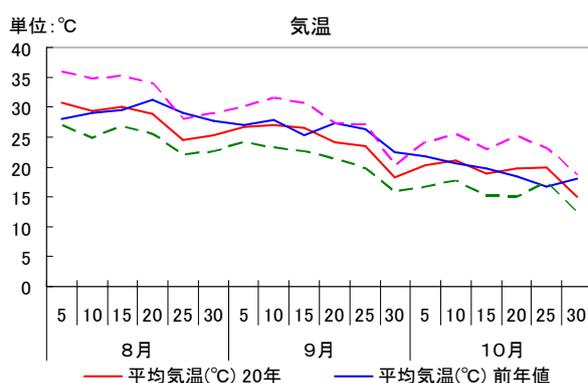
作付面積 (ha)			10a当たり収量 (kg)			収穫量 (t)			出荷量 (t)		
20年	19年	前年比	20年	19年	前年比	20年	19年	前年比	20年	19年	前年比
5,468	5,452	100	4,717	4,600	103	257,909	250,765	103	216,851	213,279	102

○確定計画

全国出荷量(t)			うち系統出荷量(t)		
20年	19年	前年比	20年	19年	前年比
501,153	498,507	101	221,057	214,010	103

(2) 天候

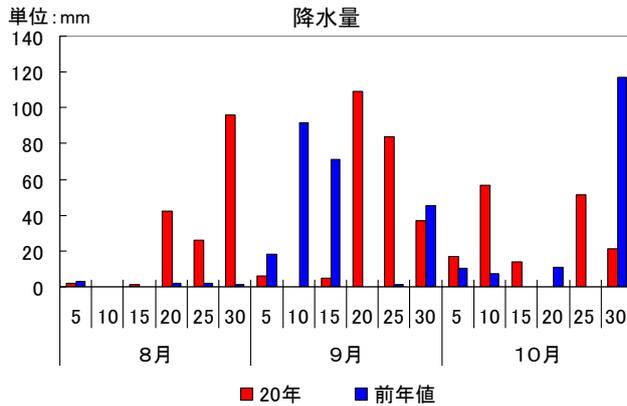
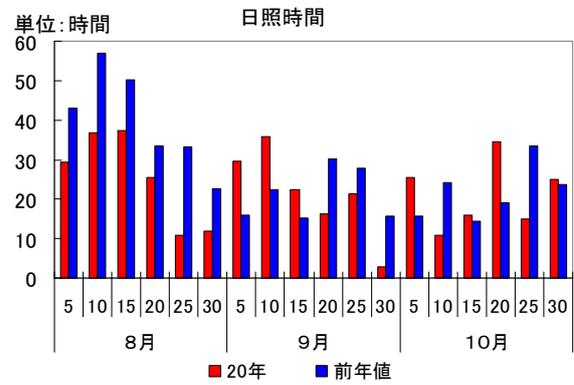
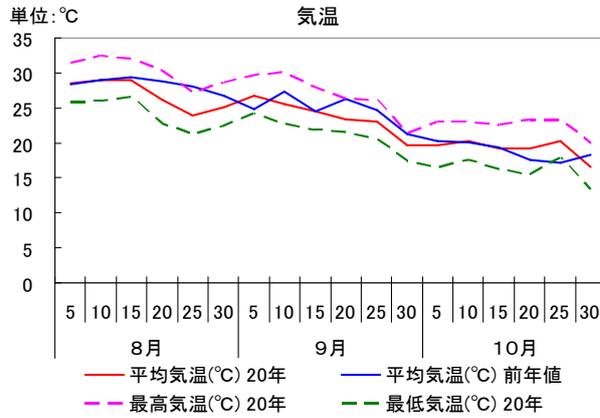
① 主産地の愛知県の平均気温は、8月前半は前年並み、後半以降9月初めまでは前年を下回った。その後、9月半ばまでは前年をやや上回ったものの、後半は前年を下回って推移したが、10月半ば以降は前年を上回って推移している。日照時間については、8月は前年を下回り、9月半ば以降前年を下回ったものの、10月に入り前年を上回って推移している。降水量は、9月半ばに前年を下回ったものの、全体的には前年を上回って推移している。



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」、

原資料：気象庁「AMeDAS」

② 同じく主産地の千葉県の平均気温は、8月半ばまでは上旬に前年並みとなり半ば以降前年を下回って推移し、9月初めに前年を上回ったものの、その後は前年を下回って推移したが、10月半ば以降は前年を上回って推移している。日照時間については、8月は前年を下回り、9月前半は前年を上回った。9月半ば以降は前年を下回り、10月に入り前年を上回る推移となっている。降水量は、9月前半に前年を下回ったものの、10月に入り前年を上回る推移となっている。



(3) 生育・出荷状況及び今後の見通し

【事務局】

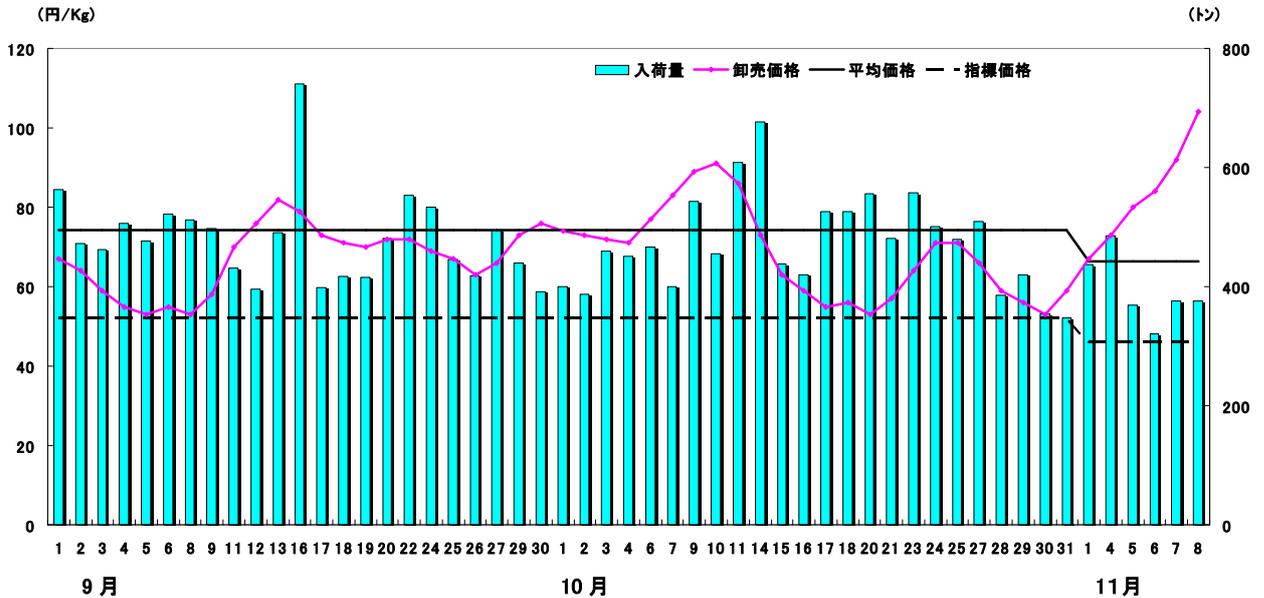
- ① 昨年の価格は平年並みであり、作付け意欲に対しては中立的と考えられる。
- ② 供給計画の当初計画では収穫量は対前年比 103%であり、出荷量は対前年比 102%である。
- ③ これまでのところ主産地では天候は良好であり生育は順調である。
- ④ 3 か月予報(10 月 23 日公表)では主産地がある東海地方のこの時期の平均気温は高い確率が 40%、関東地方のこの時期の平均気温も高い確率が 40%であり、生育が前進化する可能性がある。

【情報委員会での論議】

- 作付面積は、主産地の千葉は前年並み、神奈川はやや減、愛知はやや増。
- 生育状況は、産地によっては8月中下旬の集中豪雨の影響があるものの、台風の上陸がなく、また病虫害による被害もほとんど発生していない状況であり、全体的には概ね順調。

[価格]：生育状況が良好であるため安値基調。

キャベツの日別卸売数量と価格の推移
(東京都中央卸売市場)

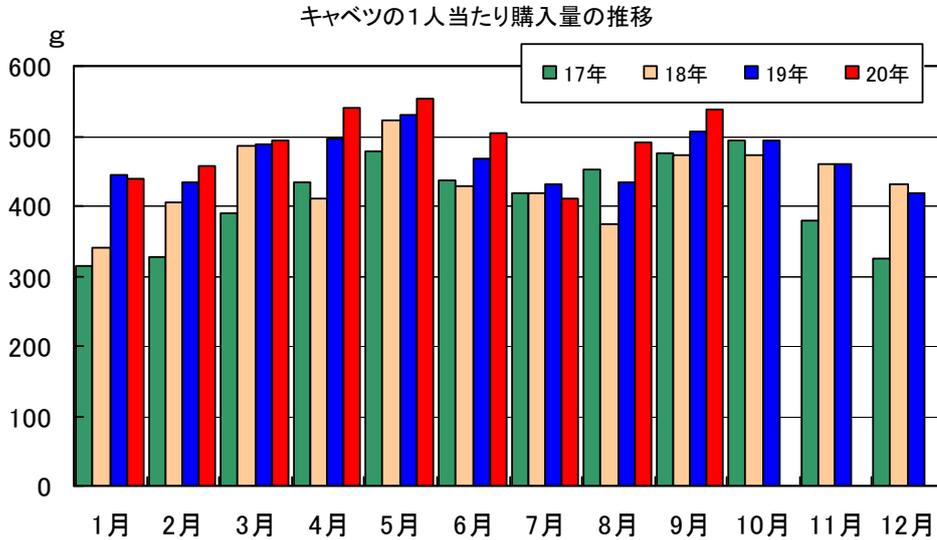


資料：農林水産省統計情報部「青果物日別取扱高統計結果」

2 需要動向

(1) 家計消費

家計調査によるキャベツの一人当たり購入数量をみると、11月、12月はやや購入量が減少する時期となっている。



資料：総務省統計局「家計調査報告」

(2) 加工・業務用需要

キャベツの加工・業務用需要は、全体需要の48%と推定されている。

キャベツの加工・業務用需要の動向

平成2年	平成12年	平成17年
46%	48%	48%

資料：農林水産政策研究所調べ

3 参考

冬キャベツの過去における市場隔離等の実施状況

年度	実施時期	実施数量(t)	年度	実施時期	実施数量(t)
H元			11	12月上旬	440
2	2月上旬	1,309	12		
3	11月上旬～12月上旬	2,359	13	11月下旬～3月下旬	813
4	11月下旬～12月中旬	1,331	14		
5			15	11月下旬～12月下旬	6,491
6			16	11月上旬～12月上旬	1,006
7			17		
8			18	12月上旬～3月上旬	8,840
9	12月中旬	509	19	2月上旬	700
10	11月中旬	87			

Ⅱ 秋冬だいこん（10月～翌年3月）の需給・価格見通し

1 生産出荷状況

(3) 供給計画

平成20年の秋冬だいこんの供給計画によると、全農が6月に策定した当初計画では、作付面積は対前年99%（系統共販分）であるが、10アール当たりの収量増を見込み、収穫量・出荷量とも101%としたところである。また、9月末策定の確定計画においては、天候不順の影響が一部に見られたが生育は概ね順調として全体・系統共販計とも100%としている。

○当初計画

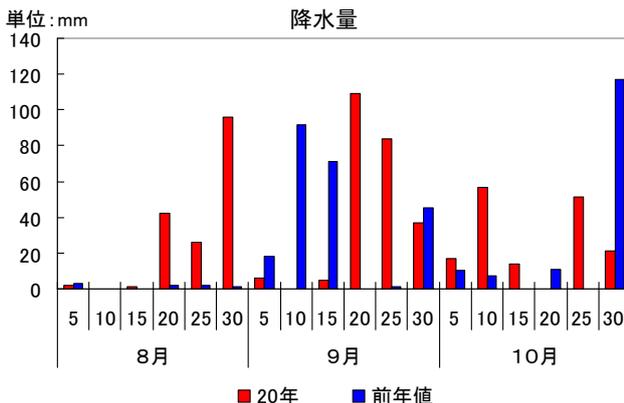
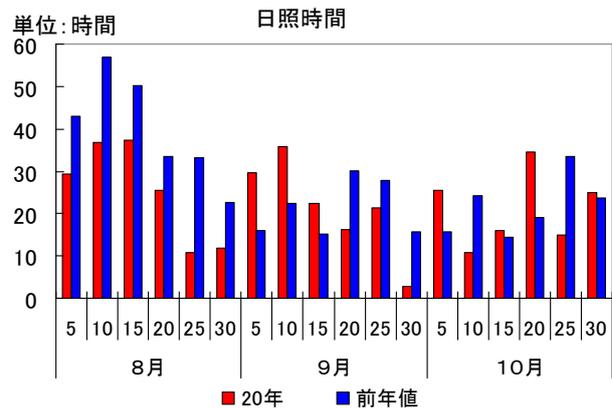
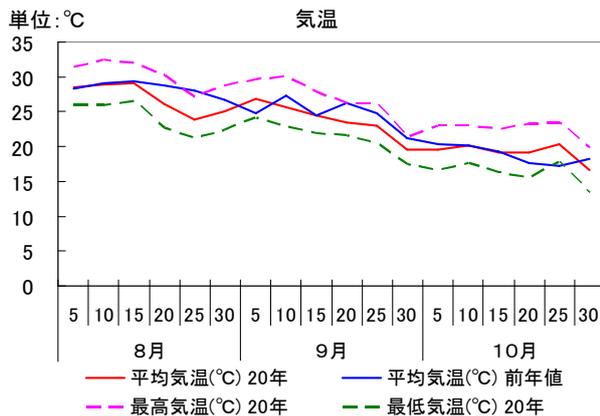
作付面積 (ha)			10a 当たり収量 (kg)			収穫量 (t)			出荷量 (t)		
20年	19年	前年比	20年	19年	前年比	20年	19年	前年比	20年	19年	前年比
4,545	4,594	99	5,857	5,747	102	266,200	264,016	101	240,419	238,393	101

○確定計画

全国出荷量(t)			うち系統出荷量(t)		
20年	19年	前年比	20年	19年	前年比
549,085	548,491	100	220,315	219,621	100

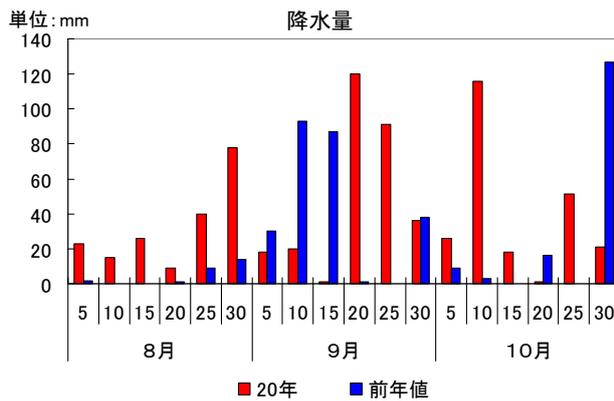
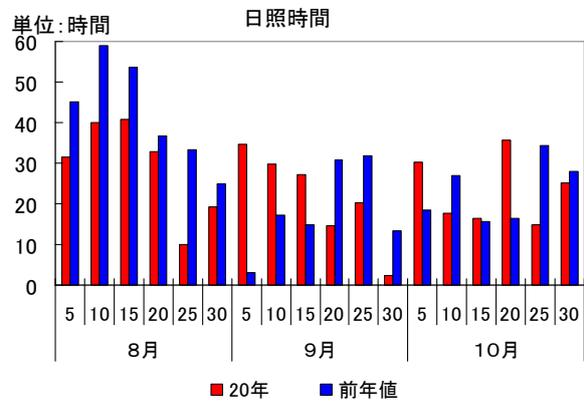
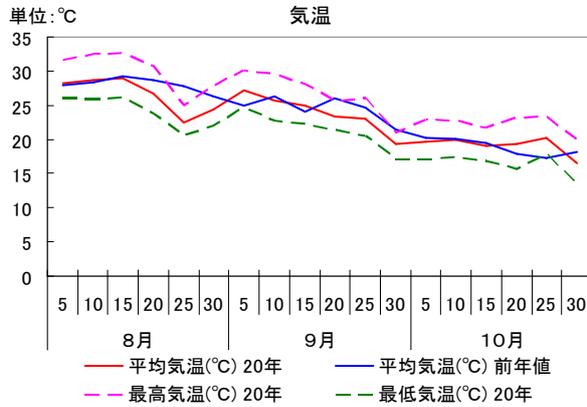
(4) 天候

① 同じく主産地の千葉県の平均気温は、8月半ばまでは上旬に前年並みとなり、半ば以降前年を下回って推移し、9月初めに前年を上回ったものの、その後は前年を下回って推移したが、10月半ば以降は前年を上回って推移している。日照時間については、8月は前年を下回り、9月前半は前年を上回った。9月半ば以降は前年を下回り、10月に入り前年を上回る推移となっている。降水量は、9月前半に前年を下回ったものの、10月に入り前年を上回る推移となっている。



資料：農畜産業振興機構「ページ探」、
 原資料：気象庁「AMeDAS」

② 神奈川県は、8月前半は上旬に前年並みとなり、9月初めに前年を上回ったものの、その後は前年を下回って推移したが、10月半ば以降は前年を上回って推移している。日照時間については、8月は前年を下回り、9月前半は前年を上回った。9月半ば以降は前年を下回り、10月に入り前年を上回って推移している。降水量は、9月前半に前年を下回ったものの、全体的には前年を上回る推移となった。



(3) 生育・出荷状況及び今後の見通し

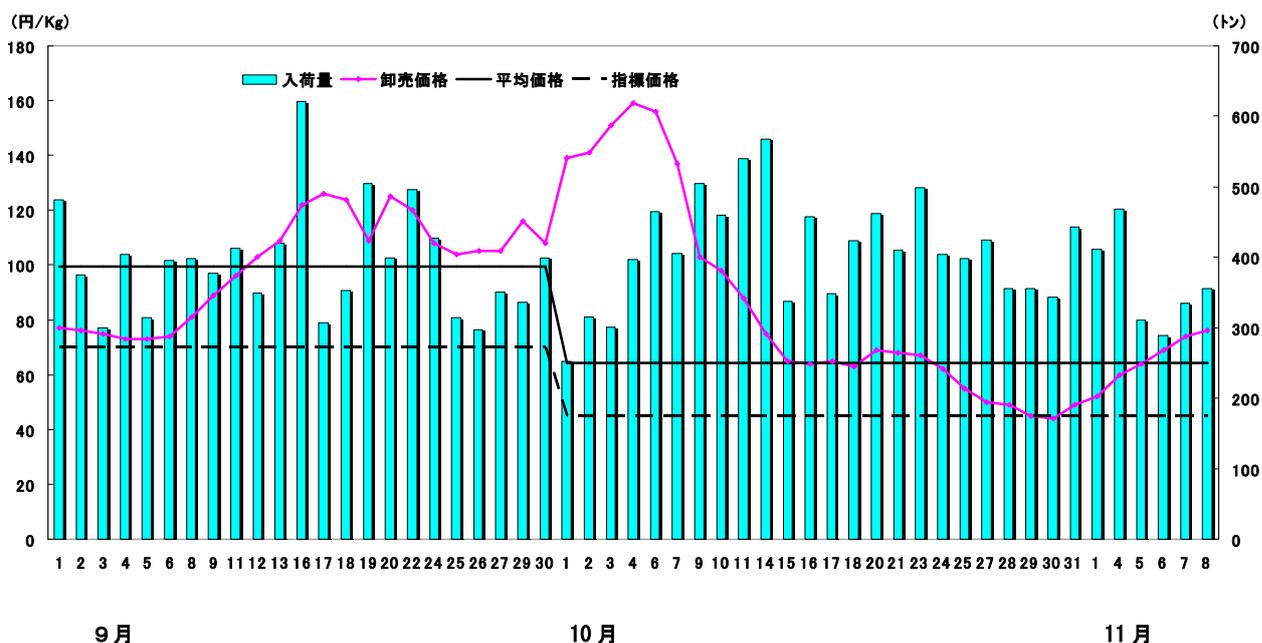
【事務局】

- ① 昨年の価格は平年並みであり、作付け意欲に対しては中立的と考えられる。
- ② 供給計画の当初計画では収穫量は対前年比 101%、出荷量は同 101%である。また確定計画の出荷量は対前年比 100%である。
- ③ これまでのところ主産地では天候は良好であり生育は順調である。
- ④ 3 か月予報(10 月 23 日公表)では主産地がある関東地方のこの時期の平均気温は高い確率が 40%であり、生育が前進化する可能性がある。

【情報委員会での論議】

- 作付面積は、主産地の千葉、神奈川、徳島ともに前年並み。
 - 生育状況は、主産地の一部で播種時期に局部的豪雨があったが、全体的には前年並み。
- [価格]：玉太りもよく安値基調。

だいこんの日別卸売数量と価格の推移
(東京都中央卸売市場)

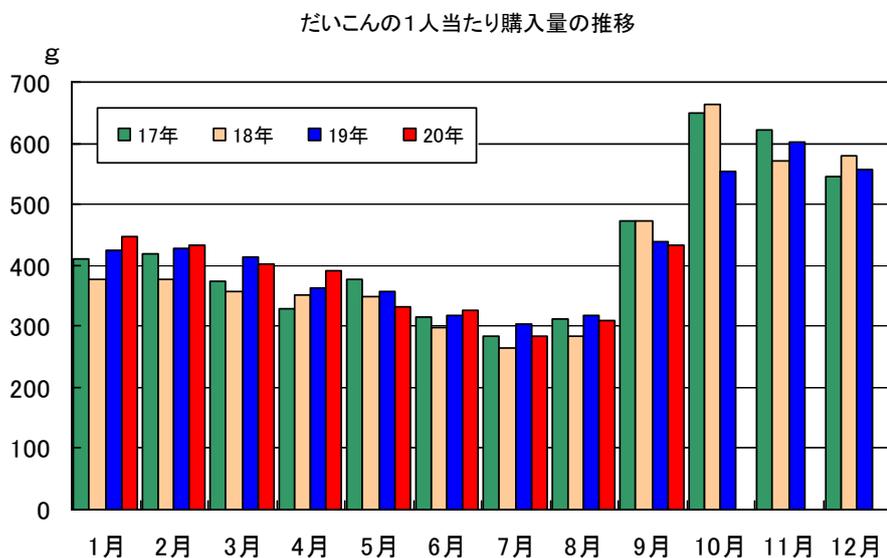


資料：農林水産省統計情報部「青果物日別取扱高統計結果」

2 需要動向

(1) 家計消費

家計調査によるだいこんの一人当たり購入数量をみると、10～12月は非常に多い時期となっている。



資料：総務省統計局「家計調査報告」

(2) 加工・業務用需要

だいこんの加工・業務用需要は、全体需要の58%と推定されている。

だいこんの加工・業務用需要の動向

平成2年	平成12年	平成17年
58%	58%	58%

資料：農林水産政策研究所調べ

3 参考

秋冬だいこんの過去における市場隔離等の実施状況

年度	実施時期	実施数量(t)	年度	実施時期	実施数量(t)
H元			11	11月下旬～2月中旬	3,335
2	12月中旬～2月上旬	1,954	12		
3	11月上、中旬	471	13	11月中旬～3月中旬	3,256
4	12月中旬	250	14	10月中旬	150
5	12月上旬	350	15	11月上旬～12月中旬	4,518
6			16	11月上、中旬	866
7			17	12月上旬	507
8	11月中、下旬	641	18	11月下旬～3月上旬	5,094
9	12月上、中旬	5,010	19	2月上旬	2,995
10					

Ⅲ 秋冬はくさい（10月～3月）の需給・価格見通し

1 生産出荷状況

(5) 供給計画

平成20年の秋冬はくさいの供給計画によると、全農が6月に策定した10～12月期の当初計画では、作付面積は対前年100%（系統共販分）であるが、10アール当たりの収量増を見込み、収穫量101%、出荷量は105%としたところである。同じく1～3月期の当初計画は、作付面積は対前年99%（系統共販分）であるが、10アール当たりの収量増を見込み、収穫量101%、出荷量は107%としたところである。また、9月末策定の確定計画（10～12月期）においては、昨年とほぼ同様の生育状況から、全体・系統共販計とも102%としている。

○当初計画（10～12月）

作付面積 (ha)			10a 当たり収量 (kg)			収穫量 (t)			出荷量 (t)		
20年	19年	前年比	20年	19年	前年比	20年	19年	前年比	20年	19年	前年比
2,164	2,163	100	4,996	4,927	101	108,109	106,574	101	79,113	75,433	105

当初計画（1～3月）

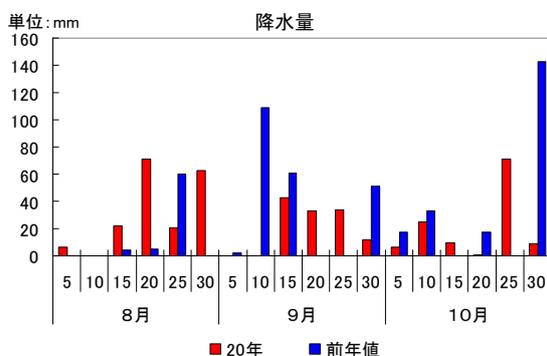
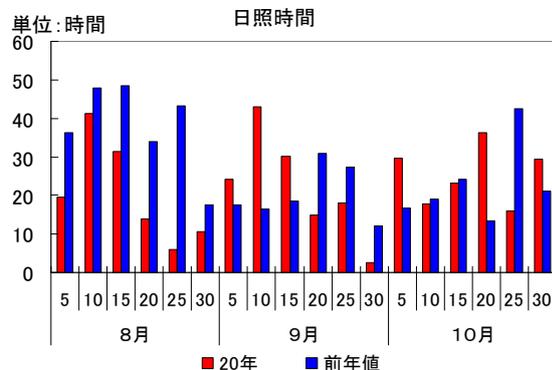
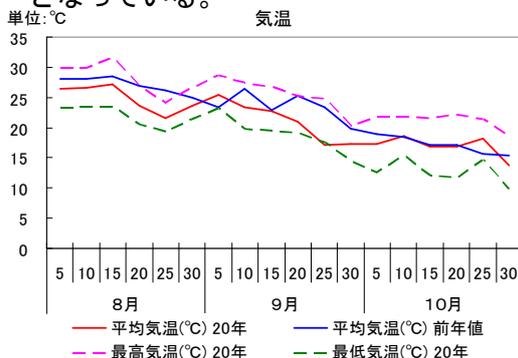
作付面積 (ha)			10a 当たり収量 (kg)			収穫量 (t)			出荷量 (t)		
20年	19年	前年比	20年	19年	前年比	20年	19年	前年比	20年	19年	前年比
1,659	1,676	99	6,119	5,968	103	101,511	100,023	101	78,604	73,707	107

○確定計画（10～12月）

全国出荷量(t)			うち系統出荷量(t)		
20年	19年	前年比	20年	19年	前年比
310,598	305,035	102	72,668	71,318	102

(6) 天候

主産地の茨城県の平均気温は、9月初めに前年を上回ったものの、全体的には前年を下回った。日照時間は、8月が前年を下回り、9月は半ばまでは前年を上回ったがその後前年を下回り、10月に入ってから前年を上回る推移となっている。降水量は、8月は前年を上回ったが、9月は半ばまでは前年を下回って推移しその後は一時前年を上回ったが下旬以降は前年を下回る推移となっている。



資料：農畜産業振興機構「ページ探」、
原資料：気象庁「AMeDAS」

(7) 生育・出荷状況及び今後の見通し

【事務局】

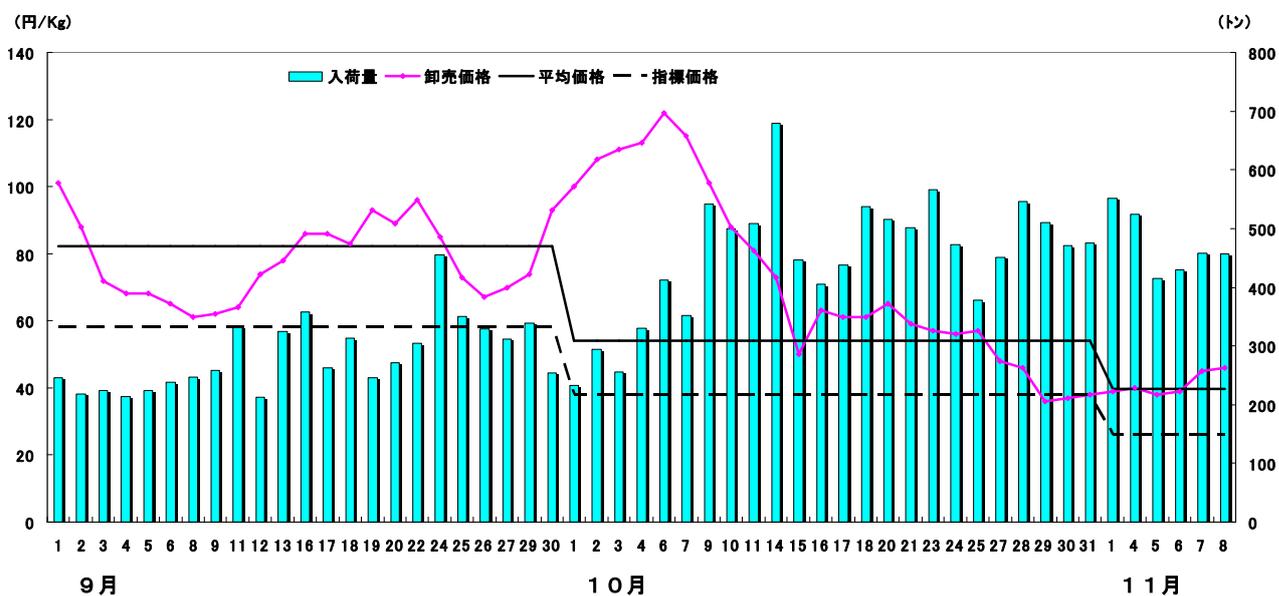
- ① 昨年の価格が全体的には高かったことから生産者の作付け意欲を高める方向に働くものとみられる。
- ② 供給計画の当初計画では収穫量は対前年比 101%、出荷量は 10～12 月同 105%、1～3 月同 107%である。また確定計画(10～12 月)では出荷量は対前年比 102%である。
- ③ 主産地では 8 月中下旬の天候不良により定植が遅れたところもあり、年内出荷については 11 月以降に出荷が集中する可能性がある。
- ④ 3 か月予報(10 月 23 日公表)では主産地がある関東地方のこの時期の平均気温は高い確率が 40%であり、生育が前進化する可能性がある。

【情報委員会での論議】

- 作付面積は主産地の茨城、愛知、兵庫ともに前年並み。
- 生育状況は、概ね順調であるが主産地で 8 月中下旬に降雨があり、定植時期がずれたことによる集中出荷が懸念。

【価格】：11 月に出荷が集中する可能性があり、低落することもある。

はくさいの日別卸売数量と価格の推移
(東京都中央卸売市場)

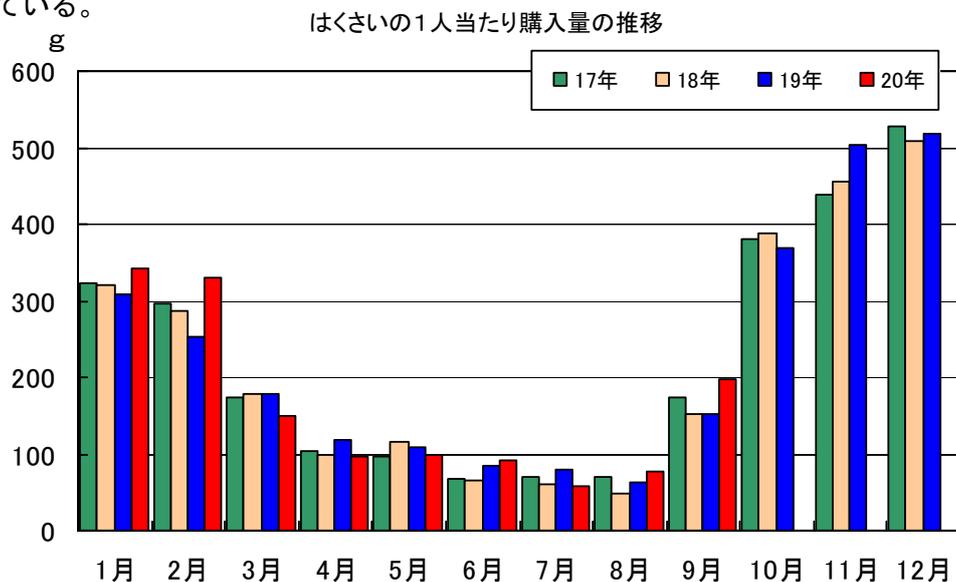


資料：農林水産省統計情報部「青果物日別取扱高統計結果」

2 需要動向

(1) 家計消費

家計調査によるはくさいの一人当たり購入数量をみると、10月～12月は非常に多い時期となっている。



資料：総務省統計局「家計調査報告」

(2) 加工・業務用需要

はくさいの加工・業務用需要は、全体需要の52%と推定されている。

はくさいの加工・業務用需要の動向

平成2年	平成12年	平成17年
54%	57%	52%

資料：農林水産政策研究所調べ

3 参考

秋冬はくさいの過去における市場隔離等の実施状況

年度	実施時期	実施数量(t)	年度	実施時期	実施数量(t)
H元			11	12月上旬～2月上旬	3,686
2			12		
3	3月上旬	400	13	12月中旬～2月下旬	6,139
4			14		
5			15	12月中旬	1,201
6			16	11月上、中旬	163
7			17		
8			18	11月下旬～2月上旬	9,699
9	12月上、中旬	670	19	2月上旬	1,026
10	11月中旬	293			

Ⅳ 情報委員会におけるその他の品目についての論議

- たまねぎは、主産地である北海道は、去年は豊作であったが今年は昨年ほどではなく平年並み。
- にんじんは、主産地の愛知、長崎、千葉の情報では、11月を中心としてやや少なくなる見通し。(現在は回復基調。)
- レタスは、主産地である静岡、兵庫、香川では、ここ数年10月が高温に推移しているため品質低下等の懸念があり、10月出荷から11月出荷にずらしている産地が多い。このような中で、今年はこの3県より出荷時期の早い茨城が8月中旬以降の降雨により定植が後ずれており、10月の出荷がやや抑制され11月にずれ込むことも予想され、出荷が重なる可能性あり。

[価格]：総じて需要が伸びない状況が続いており、全体的に安値基調。特にレタスは11月に出荷が集中する可能性があり、低落することもある。